

指揮:高井優希



指揮者の高井優希は、ルーマニアで開催された黒海指揮コンクールで第1位を受賞しました。これまでに、大阪フィル、九州響、仙台フィル、セントラル愛知響、中部フィル、東京フィル、コンスタンツア国立歌劇場管、ローマ・イタリア管など、国内外の主要なオーケストラと共に演奏しました。東京藝術大学を卒業し、ライプツィヒ・メンデルスゾーン音楽演劇大学を卒業。2020年度セントラル愛知交響楽団アソシエイトコンダクターをつとめました。現在は、国内で様々なオーケストラを指揮するかたわら、武蔵野音楽大学の講師として後進の指導にあたっています。

司会:加藤恵利子



名古屋市生まれ。第34回 芸術創造賞を受賞。名古屋音楽大学声楽学科を卒業後は、沢山のオペレッタやミュージカルに出演したり、日本の童謡や唱歌を歌うソロコンサートにも出演しています。その他、コンサート等での司会やナレーションも務めています。自主企画のコンサートに「加藤恵利子～日本の歌、お好きですか?」、聴こえのサポートについて考える「みみコン～みんなと耳の日コンサート」等があります。

オーケストラ:セントラル愛知交響楽団

1983年ナゴヤシティ管弦楽団としてスタートし、1997年に現在の名前に変わりました。2019年4月から常任指揮者に角田鋼亮が就任しました。定期演奏会、コンチェルトシリーズ、「第九」演奏会の他、バレエ、オペラ、ミュージカルや室内楽公演にも数多く出演しています。学校公演にも積極的に取り組んでおり、地域音楽文化や音楽教育に力を入れています。



令和4年度 文化芸術による子供育成推進事業 一巡回公演事業一

セントラル愛知交響楽団 オーケストラ公演

オーケストラで表現するアイデンティティー ～諸国の特徴ある音楽を探る～



公演日／令和4年 9月 15日

学校名／浜松市立雄踏中学校

「文化芸術による子供育成推進事業 一巡回公演事業一」

我が国の一流の文化芸術団体が、小学校・中学校等において公演し、子供たちが優れた舞台芸術を鑑賞することにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としています。

事前のワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演では、できるだけ子供たちにも参加してもらいます。



プログラム



● ドヴォルザーク: **スラブ舞曲Op.72-1**

● 弦楽器紹介

ピアソラ: **ブエノスアイレスの夏**

● 管・打楽器紹介

● 指揮者体験コーナー

ブラームス: **ハンガリー舞曲第5番**



● チャイコフスキー:

組曲「くるみ割り人形」より‘花のワルツ’

..... 休憩

● 音楽部の皆さんと共に演

ブラームス: **ハイドンの主題による変奏曲**

校歌



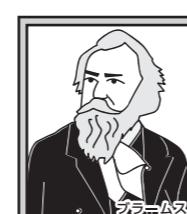
● モシュコフスキー:

「世界中の国々から」より‘イタリア’

● スメタナ:

連作交響詩「わが祖国」より‘ブルタバ(モルダウ)’

○ メモ



演奏曲目の紹介



● **スラブ舞曲Op.72-1**

チェコで生まれたドヴォルザーク(1841~1904)は、音楽教育者としてアメリカでも活躍しました。生き生きとした2拍子の部分と、優雅な中間部分を聴き比べてみましょう。

● **ブエノスアイレスの夏**

アルゼンチン出身のピアソラ(1921~1992)は、幼少期にアメリカ、その後フランスで過ごしました。作曲活動のかたわら、バンドネオン奏者としても活躍しました。この作品は様々な編成で編曲されていますが、今回は弦楽合奏版でお届けします。

● **ハンガリー舞曲第5番**

ドイツ生まれのブラームス(1833~1897)が、ハンガリーを旅した時に出会った民謡を集めて作品にしたのが「ハンガリー舞曲集」。速さや強弱の変化に富んでいます。皆さんも指揮者になった気分で楽しんでください。

● **組曲「くるみ割り人形」より‘花のワルツ’**

数々のバレエ音楽を生み出したロシアの作曲家・チャイコフスキー(1840~1893)による代表作。優雅で親しみやすい旋律が、3拍子のリズムにのって色々な楽器で演奏されます。

● **「世界中の国々から」より‘イタリア’**

モシュコフスキー(1854~1925)はポーランドの作曲家。生涯で作曲した作品数は200を超越します。「世界中の国々から」はもともと4手のピアノ連弾曲でしたが、作曲家自身によって管弦楽版に編曲されました。この作品はヨーロッパ諸国をテーマとして、全6曲から構成されており、音楽によってそれぞれの国の特徴がよく表されています。本日は第2曲目の‘イタリア’を演奏します。

● **連作交響詩「わが祖国」より‘ブルタバ(モルダウ)’**

スメタナ(1824~1884)はドヴォルザークと同じくチェコの作曲家。作曲された当時のチェコはオーストリア(ハプスブルク家)による政治的影響を強く受けっていました。スメタナは母国への誇りを秘めて、6曲からなる連作交響詩「わが祖国」を作曲しました。第2曲‘ブルタバ(モルダウ)’では、チェコの母なる川ブルタバ(モルダウ)がモチーフとなり、二つの源流がやがて雄大な川となっていく様子を描写しています。